

応答に用いられる 「別に」の研究

情報工学科 3年 平田 航也

応答に用いられる「別に」

- 「別に。」
- 「別にどっちでもいい」
- 「本当は別にこの時期じゃなくてもよかったですかね」
- 「いいえ、別に...」
その他いろいろ

「別に」ということば

このことばは会話に浸透していてよく使われる



何か背景が読み取れるはず！

違いをもたせたふたつの文を比較することで考察していく

先行研究

- 『広辞苑』（岩波書店）より
 - これとって特に、特別には。（副詞）
（打ち消しの意を伴う）
- 『明鏡国語辞典』（大修館書店）より
 - 感動詞的に打ち消しの応答表現としても使う

論文などは確認できず

「別に」がつく応答、つかない応答

ここでは文頭につくもののみ

「何か変わったことはあった？」

- 「なかったよ」
- 「別になかったよ」

「代わりにやっておいてくれる？」

- 「いいよ」
- 「別にいいよ」

比較 ひとつめの例

「何か変わったことはあった？」

- 「なかったよ」

—そのままの意味しか読み取れない

—返事が即決したという印象に近い

比較 ひとつめの例

「何か変わったことはあった？」

• 「別になかったよ」

— 「これとって言うほどのことはなかったよ」

— 過去に起こったことを思い出し、吟味した結果、わざわざ言うほどのことはなかったと判断している、という解釈ができる

ここで「小さな思考」が読み取れる

比較 ふたつめの例

「代わりにやっておいてくれる？」

- 「いいよ」

—そのままの意味しか読み取れない

—返事が即決したという印象に近い

比較 ふたつめの例

「代わりにやっておいてくれる？」

• 「別にいいよ」

— 「これと違って断る理由もないからいいよ」

— 多少なりとも不満はあるが、それほど重要なものではないと判断したため承諾した、という解釈ができる

ここで「小さな思考」が読み取れる

ここからわかること

「別に」という単語には、

「小さな思考の末、たいした結果には至らなかった」

という背景があり、その小さな思考をより明示的にする

じゃあ「別に」の位置が変わったら？

今の例は文頭に「別に」があるもの

- 「別になかったよ。」
- 「別にいいよ。」とか

位置を変えるとどうなるのか？

語順変更

- 「別になかったよ。」
- 「なかったよ別に。」

- 「別にいいよ。」
- 「いいよ別に。」

先にきても後にきても大きな違いはみられない

文章の長さ

語順での違いはみられなかった

今の例はどちらも文章が短め
長いものだとどうなるのか？

長い応答

「別に」のつくものとつかないものを比較

「引越しですか？」

- 「ええ。本当はこの時期じゃなくてもよかったですかね」
- 「ええ。本当は別にこの時期じゃなくてもよかったですかね」

「彼にはこっぴどく批判されましたが」

- 「彼は悪気があって言ったわけではないと思うんだ」
- 「彼は別に悪気があって言ったわけではないと思うんだ」

ひとつめの例

「引越しですか？」

- 「ええ。本当はこの時期じゃなくてもよかったですかね」
- 「ええ。本当は別にこの時期じゃなくてもよかったですかね」

このふたつの文の意味に大きな違いは見られない

ただ、「別に」がつくことによって、

「これと違って～ない」という「別に」本来の意味が付加されている

本来の意味が付加される、とは？

「引越しですか？」

「ええ。本当は別にこの時期じゃなくてもよかったですかね」

この応答の場合

「これとってこの時期である必要がないこと」が
強調され、聞き手に伝わりやすくなる、ということ

ふたつめの例

「彼にはこっぴどく批判されましたが」

- 「彼は悪気があって言ったわけではないと思うんだ」
- 「彼は別に悪気があって言ったわけではないと思うんだ」

このふたつの文章についても、大きな違いは感じられない
先ほどのものと同じく、

「これと違って～ない」という「別に」本来の意味が付加されている

ここからわかること

長い文にある「別に」からは、

その単語本来の意味しか読み取れない

つまり純粹に話の展開に寄与していると考えられる

文の長さによって違う？

- 短い応答では

たとえば「別にいいよ。」とか

→「小さな思考の末、たいした結果には至らなかった」という背景

- 長い応答では

「本当は別にこの時期じゃなくてもよかったですかね。」とか

→特に背景なし。「別に」本来の意味のみ

なぜ文章の長さによって違うのか？

長さによる違い

文章が長いと、

- 「別に」という単語はほんの一部でしかない
- 「本当は別にこの時期じゃなくてもよかったんですがね」

↑ 24文字のうちのたった2文字

だから「別に」という単語の影響が小さくなり、
本来の意味しか読み取れなくなる

長さによる違い

文章が短いと、多くの割合を占める

- 「別になかったよ」

↑ 7文字のうちの2文字

文が短いため「別に」の影響が強くなり、この単語の背景が目立つ

(具体的な文字数の割合がすべてではない)

ここからわかること

「別に」が入る応答のうち、
文が短ければ「別に」の背景が目立つ
文が長ければ「別に」の背景は目立たない

位置を変えても

「別に」の位置を変えてみる

- 「本当は別にこの時期じゃなくてもよかったですかね」
- 「別に本当はこの時期じゃなくてもよかったですかね」

大きな違いはない

やはり位置は関係ない？

どもっているもの

「何か不都合でも？」

- 「いいえ」
- 「いいえ、別に...

「この予定でいかがですか？」

- 「それなら大丈夫だと思います」
- 「それなら——別に——大丈夫だと思います」

ひとつめの例

「何か不都合でも？」

- 「いいえ」
- 「いいえ、別に...」

否定としてはかなりあいまいに感じる

「別に...」とともることによって、迷いの成分が強くなっている
だから何かを隠しているようにも思える

ふたつめの例

「この予定でいかがですか？」

- 「それなら大丈夫だと思います」
- 「それなら——別に——大丈夫だと思います」

どもっている間に考えている
その後にもまた口を開いている



考えがまとまったように感じられる

どもった後に文が入ると

「それなら――別に――大丈夫だと思います」

- 「いいえ、別に…」と切れたものと違い、迷いが晴れたイメージ
- しかし、どもるとどうしても迷いの成分が強くなるため、多少はあいまいさが残る

どもった後に文が入ると

「それなら――別に――大丈夫だと思います」

この文については

「考えてみたが、これとって問題はないと判断した」
という解釈ができる

この解釈について

「考えてみたが、これとって問題はないと判断した」

= 「小さな思考の末、たいした結果には至らなかった」

短い応答文につく「別に」と似た性質

似ているものの

このふたつには違いがみられる
単純に、どもっているか、どもっていないか



この違いは思考の大きさに関係すると思われる

思考の大きさ

どもっていないもの < どもっているもの

ここからわかること

「別に...」



その後に文が入らなければ

- ・ 迷いが顕著に
- ・ 何かを隠している印象にも

その後に文が入る

- ・ ちょっとあいまい？
- ・ 短い文につくものと似た性質

ひとことと言いつつ切ったもの

「どうしたの？」

- 「別に。」

— 「これと違ってどうもしない」という意味

どうも相手をはねのける印象がある

その理由

「どうしたの？」

- 「別に。」

ひとことしか発しておらず、生返事の印象

深くは語らないようすから、無関心な態度と受け取られがち？

考察結果

- ・ 短い応答文につく「別に」からは、「小さな思考の末、たいした結果には至らなかった」という背景が読み取れる。
また、その小さな思考を明示的にする性質がある。
- ・ 長い応答文にある「別に」には深い意味はないようで、単に話の展開として本来の意味しか読み取れない。

(語順に無関係)

考察結果

文が「別に…」と途切れている場合

- 後に文が続いていなければ「迷い」が強く読み取れる。
それゆえ「言い出せない、はぐらかそうとしている」という解釈もできる。
- 後に文が続いていれば、短い文のものと似た性質になるが、
思考自体はこちらのほうが大きいと言える。少しあいまいな印象も。

考察結果

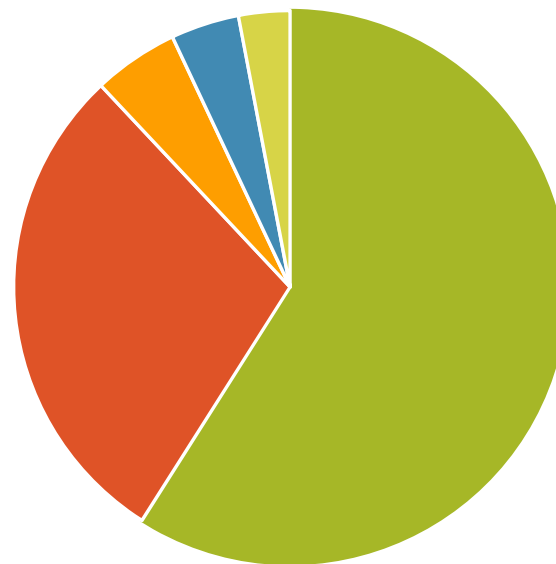
- 「別に。」とひとことだけで返答した場合、
相手を拒絶する、また無関心な印象を与えてしまうおそれがある。

結論

「別に」という単語は、
基本は「これといって～（打消し）」という意味であり、
場合によってさまざまなニュアンスを付加する。

それぞれの割合

用法（100件中）



長いもの：59%

短いもの：29%

どもり（終）：5%

どもり（続）：4%

ひとこと：3%

16文字以上なら長いものとする

■長いもの ■短いもの ■どもり（終） ■どもり（続） ■ひとこと ■

使用テキスト

島崎藤村『破戒』

吉本ばなな『キッチン』

三谷幸喜『古畑任三郎 1』

林芙美子『放浪記』

阿川弘之『山本五十六』

梶井基次郎『檸檬』

宮沢賢治『銀河鉄道の夜』

池波正太『剣客商売』

曾野綾子『太郎物語』

新田次郎『孤高の人』

森鷗外『山椒大夫・高瀬舟』

吉村昭『戦艦武蔵』

中島敦『李陵・山月記』

志賀直哉『小僧の神様・城の崎にて』

野坂昭如『アメリカひじき・火垂るの墓』

大岡昇平『野火』

沢木耕太郎『一瞬の夏』